

【取組分野・活動実績シート】

1. 基本情報

大学名・学部名・学科名	日本大学 理工学部 建築学科		
研究室 代表者名	都市計画研究室(泉山ゼミ) 泉山壘威(准教授・博士(工学)・認定都市プランナー)		
研究室代表者の専門分野	都市計画・都市デザイン(エリアマネジメント、パブリックスペース活用、タクティカル・アーバニズム/プレイスメイキング、ウォーカブルシティ、中心市街地再生)		
研究室の学生数	33名(大学院修士2年11名・修士1年10名・学部4年12名 ※2026年8月時点。学部3年生は秋配属)		
活動可能エリア	全国		
関連ホームページ	名称	URL	
	都市計画研究室(泉山ゼミ)ホームページ	https://urbandesignplanning.jp/izumiyama/	
	日本大学理工学部建築学科 研究室紹介ページ	https://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp/lab/lab-1762/	
	researchmap(泉山壘威)	https://researchmap.jp/ruilouis	

2. 地域課題解決に向けた取組分野

● 観光	(中心市街地の回遊性・滞在性向上に向けた歩行者行動調査、駅前・商店街・公園・水辺等での滞在空間づくり(プレイスメイキング)、観光客と住民の双方が過ごしやすいウォカブルなまちづくり計画の立案)
移住・定住・関係人口	()
農林水産業	()
起業支援	()
● まちなか再生	(中心市街地・駅まち空間の再生ビジョン策定支援、道路・公園・広場などパブリックスペース活用の社会実験(タクティカル・アーバニズム)、空き地・高架下等の遊休空間の利活用提案、エリアマネジメント組織・エリアプラットフォームの立ち上げ支援)
集落再生	()
● 環境	(リジェネラティブ・暑熱対策・気候変動とウォカブル
● その他	(パブリックスペース活用・ウォカブルシティ:ほこみち(歩行者利便増進道路)・公園等の制度活用、アクティビティ調査に基づく空間評価、住民参加型ワークショップ(プレイス・ゲーム、シャレット等)の企画運営、社会実験から常設化・仕組み化までの伴走、・アートグラフィティ)

3. 活動実績

【活動実績①】

(1)活動地 : 栃木県 宇都宮市(中心市街地)
(2)活動内容:2021年度から宇都宮市・一般社団法人ソトノバ・中心市街地活性化協議会等と連携した「プレイスメイキングうつのみや」プロジェクトに、大学院生・学部生(各年度6～10名程度)が継続的に参画。現地でのフィールドワーク(歩行者・滞留アクティビティ調査)、市民との対話イベント「プレみやトーク」「プレイスメイキングデイズ」、市民参加型ワークショップ(プレイス・ゲーム、プレイス・シャレット、プレみやカイギ)の企画・運営を担い、まちかど広場・中央児童公園を活用した社会実験「プレみやMONTH2023」を実施した。
(3)活動による成果:2021年度活動報告書の作成、2022年度「プレイス・ビジョン」の策定、公共空間活用の社会実験の実現と継続的なモニタリング体制の構築。学生が商店主・市民団体・行政など地域のプレイヤーと直接関わりながら、調査→ビジョン→社会実験→検証のプロセスを一貫して経験した。

【活動実績②】

(1)活動地 : 静岡県 下田市(中心市街地・駅周辺)
(2)活動内容:2021年度から下田市と連携した「下田ウォカブルプロジェクト」を実施。学生チームが国内のウォカブル政策の整理、各自治体のウォカブル推進計画の比較調査を行ったうえで、現地調査に基づき Link & Place 理論を用いて道路空間の機能(通行機能と滞在機能)を評価し、ウォカブル事業の候補地・事業内容を検討した。
(3)活動による成果:市の関係者に向けて「下田ウォカブル」の可能性(事業実施の候補場所、道路空間再編の方向性)を提案。地方の小規模都市において、学生の調査・分析が自治体のウォカブルなまちづくりの検討材料として活用された。

【活動実績③】

(1)活動地 : 東京都 千代田区(秋葉原地区) ※都市再生推進法人・区と連携した社会実験の実績
(2)活動内容:2022年度から秋葉原タウンマネジメント株式会社(都市再生推進法人)・千代田区・一般社団法人ソトノバと連携し、毎年度10～20名の学生が参画。交通量・歩行者流動・滞留行動の実地調査、「プレイス・ワークショップ秋葉原」(プレイス・ゲームによる公共空間評価)の開催、2024年度には「マーケットストリート社会実験2024」(道路の歩行者空間化・道路活用)を実施。2025年度は座り場調査「アキバスナップワーク」を実施。
(3)活動による成果:「秋葉原ウォカブル基礎調査報告書」「マーケットストリート社会実験調査報告書」を作成し、28プロジェクトを含む「秋葉原ウォカブルビジョン」の策定に貢献。エリアマネジメント団体・行政・大学の三者による継続的な連携体制が構築され、2026年度も継続中。※このほか、熊本市・神戸市・福岡市・姫路市・静岡市等の地方都市を対象とした研究・提案の実績あり。

4. 研究室卒業生の地方での活動状況

・2020～2025年度の卒業生・修了生は106名。都市計画・まちづくりコンサルタント(地域計画連合、ハートビートプラン等)、建設コンサルタント、デベロッパー、ゼネコン(都市開発部門)、エリアマネジメント団体、自治体(東京都、千葉県、横浜市、所沢市等)など、地域のまちづくりを担う職種に多くが進んでいる。
・都市計画・まちづくりコンサルタントに進んだ卒業生は、全国の地方都市の中心市街地活性化、公共空間活用の社会実験、エリアマネジメント組織の立ち上げ支援などの業務に従事している。
・在学中から、研究フィールドとなった地域や、まちづくり関連企業・団体(ソトノバ、エリアマネジメント団体等)でのインターン・専門アルバイトを通じて地域プロジェクトに継続的に関わる学生が多い。
・地方都市の配属で建設コンサルタント職で、名古屋、仙台、大阪、福岡勤務もいる。

5. 希望する活動内容

・対象エリア:地方都市の中心市街地・駅前・商店街・公園など、パブリックスペースを核とした「まちなか再生」「ウォカブルなまちづくり」に取り組みたい市町村。規模は問わないが、元々都心商業地や中心市街地のエリアマネジメントを対象としている。地域の住民・事業者・行政と一緒に進める意欲のある地域を希望する。
・3か年の活動イメージ:1年目＝学生の1週間程度の滞在型フィールドワークによる歩行者・滞留アクティビティ調査、空き店舗・遊休空間の実態把握、住民ワークショップ(プレイス・ゲーム等)を通じた「プレイス・ビジョン」の策定。2年目＝道路・公園・広場等を活用した社会実験(タクティカル・アーバニズム)の企画・実施・効果検証。3年目＝常設化・制度活用(ほこみち、Park-PFI等)の検討と、エリアマネジメント組織・エリアプラットフォームなど継続的な担い手の仕組みづくり。
・関係人口づくり:空き家等を活用した学生の活動・滞在拠点の整備を地域と共同で行い、事業終了後も研究室として継続的に学生を送り出す体制をつくる。地域の高校生・子育て世代・商店主等との交流機会(イベント・意見交換)を各回の滞在に組み込む。
・体制:研究室代表者(泉山)の指揮下で大学院生をリーダーとするチームを編成し、学部生を含む10名前後で活動。中間支援組織や地域のまちづくり団体との連携を重視する。